

(国語)

## 文章を読み解き、対話する力の育成 ～文学的文章を通して～

大阪市立今川小学校 三上 孝

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、令和4年度から研究教科を国語科として、校内研究を進めた。令和4年度では、研究主題を「主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く指導～話す・聞く力の育成～」として、「話すこと・聞くこと」に焦点を当てて研究を進めた。

「話すこと・聞くこと」を意識し、継続して取り組んだ結果、少しずつではあるが自分の考えをみんなに話すことができるようになったり、国語科以外の学習でも自分の考えに自信をもって発表することができるようになったりしている児童が増えてきている。児童アンケートにおいても「自分の気持ちや考えをわかるように話すことができる」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合が78%から80%になり、「先生や友だちの話をしっかりと聞くことができる」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合が89%から92%になり、わずかながら増加した。しかし、日常生活の中で児童は静かに話を聞くことはできているが、積極的に話を聞こうとしたり、考えながら聞いたりすることはできていないと感じている教員が多かった。以上のことから、研究主題を「文章を読み解き、対話する力の育成～文学的文章を通して～」と設定した。

### 2. 研究の趣旨

令和4年度の研究のまとめの中でも、ただ静かに話を聞くだけではなく、児童が友だちの話に積極的に耳を傾け、考えながら聞いて自分の考えを話すことが必要だと感じた。それらの反省を受けて、子どもたちが「聞きたい」「表現したい」「伝えたい」という「思い」や「考え」を一人一人が持つことができるような課題設定や問いかけを工夫する必要性を痛感した。以上のようなことから、令和5年度は、「読むこと」の学習をもとにして、読みの課題に対して自分の考えを話したり、聞いたりして対話する力を育成することを目指すことにした。

「読むこと」の教材は文学的な文章に絞った。まずは内容を読み取る必要があり、発問を工夫することで多様な考えが生まれ、活発な交流へと進めていくと感じた。児童は友だちの異なる考えを聞くことで自分の考えが深まったり、自分の表現に取り入れたりするようにした。このような対話的な学習を通して、文章を読み解いていく力をつけていきたいと考えた。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 物語文を読み解く力を育てる工夫

○読み手の勝手な想像ではなく、文章の一つ一つの言葉や表現に即して丁寧に読むことを意識することが大切であるため、登場人物の行動や心情、性格を表す叙述や場面の様子が想像できる描写にサイドラインを引いたり、行動の理由を探ったりするなど、根拠を持って登場人物の気持ちを読み取る指導を行う。

#### 視点② 物語文を読んで自分の考えをもって、対話する力を育てる工夫

- 対話する力の育成のために、児童一人一人が「表現したい」「伝えたい」という「思い」や「考え」を持つことができるような発問を工夫する。
- 交流場面では必ず自分の考えをノートやワークシートに書いてから交流を行う。自分の考えや他者の考えを可視化するといった工夫をする。
- ペアトークやグループトーク、全体交流といった豊富な交流場面の設定をする。
- 授業の終わりに「ふりかえり」を行うことで、子どもたち一人一人が学びの成果（自分や互いの良さ）を実感することができ、次時への意欲や問題意識を持つことにつなげるとともに、「ふりかえり」から見えた子どもの学びの実態を授業や指導の改善につなげる。

#### 視点③ 「話す・聞く」の基礎・基本の力を育てる工夫

- 基礎・基本の力を育成するために、「話したり、聞いたりする力」を育てる手立てを工夫する。伝え合う時の態度、「聞き方あいうえお」や「話し方かきくけこ」、声のものさし、ハンドサインなどを教室に掲示する。
- 国語科の学習以外でもスピーチを行い、相手意識をもって話すようにする。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- どの学年でも物語文を読み取る際に、勝手な想像ではなく登場人物の行動や心情、性格を表す叙述や場面の様子が想像できる描写にサイドラインを引くなど、根拠を持って登場人物の気持ちを読み取ることができた。
- 一問一答にならないような対話につながる主発問を工夫したことで、より活発な話し合いを行うことができた。
- 自分の考えをノートに書くことで、全員が話し合いに参加することができ、自信をもって友だちに意見を伝えることができた。
- 授業の終わりに「ふりかえり」の時間を設定することで、自分の考えの変容や友だちの考えのよさに気づくことができた。
- 朝の会での1分間スピーチや国語科以外での学習でも、「話す・聞く」を意識した活動を取り入れることができた。1分間スピーチでは、回を重ねるごとに話す文字数も増えた。

#### (2) 今後の課題

- 子どもたち一人一人が、根拠を持って登場人物の気持ちを読み取ることができたが、対話を通して読み解いていく話し合いまではできなかった。友だちの考えを聞いて、そこからつなげていく話し合い活動を行っていく。
- 聞くことに力をいれていき、ペアトークの後に隣の子どもの意見を発表させたり、全体交流の際にも、発言した子どもの考えを復唱させたりしていく。
- 対話ができる子どもたちを育てていくために、教師側が子どもの発言を繰り返さなかったり、しゃべりすぎたりしないようにしていく。